

明日に 向かう

明日に向かって
多治見陶都ライオンズクラブ
広報誌
1999 Vol. 10

LIBERTY・LEADER・LABOR・LOYALTY・LAW・LIFE・LOVE



We Serve を We Volunnteer へ



Z Cとしての一年間

第2R 第3Z ZC 小芝 邦章

他人(ひと)との出会いの一年間であり、貴重な経験を積んだ一年間でした。

98~99年度を振り返って見るとき、多くの出会いがあり、温かいご指導をいただいた一年間でありました。

ホストクラブの心温まるご支援、ゾーン内の各クラブのご理解・ご協力をいただき、年度が始まってからは感謝感謝の連続でした。RC・ZC予備会議、キャビネット会議、リジョン役員会、地区ガバナー諮問委員会の四つの会議にも楽しく出席することができましたし、それらの会議を通して様々な経験を積ませていただきました。

特に印象に残っているのは、三重県のライオンとの出会いであります。他県のライオンとの出会いは、私の場合、貴重な財産となり、心の糧としていつまでも大切にしたいと思っております。

また、岐阜県の他のゾーンのライオンとの出会いは、先輩諸兄が多く学ぶことばかりでありました。それぞれの地域で、奉仕活動に熱意を持って、誠心誠意取り組んでおられる多くのライオンを見るとき、私のライオンズクラブに対する姿勢を反省すること、しきりでありました。

いずれにしても、貴重な経験をさせていただいた我が多治見陶都LCに対し、心から御礼申し上げますとともに、補佐役として何かとご多忙の中、無理をきいていただきました加藤恵一ライオン・加藤彰久ライオンに衷心より感謝申し上げます。

一年を振り返って

1998年度会長 佐藤 宏

6月に入り初夏の爽やかな風が、暑さを吹き飛ばす季節となりました。思えば昨年7月「初心に戻ってWe Serve」の合い言葉で船出しました我々の船も無事着港となりました。

本年は、経済情勢の最悪の年となり、特に業界に於いては、企業の減少が、相次いでおります。その中で当クラブの活動も制約された感がありました。当クラブより小芝ゾーンチェアマンを送り出し、当クラブとキャビネットのパイプが強化されました事は、小芝ゾーンチェアマンの御活躍のお陰と思っております。一年間御苦勞様でした。心より感謝申し上げます。

この一年を振り返りますと、主な事業といたしまして、昨年の8月7日のゾーンチェアマン例会訪問の多治見ライオンズクラブとの合同例会、そしてスイスよりのYE交換学生の受け入れ、その時には、ホストファミリーの尾関夫妻、丹羽夫妻には大変御世話様になりました。スイスという国が身近に感じられる様になりました。心より感謝申し上げます。又、今年度最大の事業であります東洋東南アジアフォーラム横浜大会に、11月27日・28日に一泊移動例会として出掛けました。藤田ライオンの出席もあり、印象深く、思い出に残る移動例会で成功のうちに終わったと思っております。計画委員会、大会委員会の皆様、有難うございました。又、各委員会の皆様方には、それぞれ充実したアクティビティを行なっていただき心より御礼申し上げます。

我々のライオンズクラブも、新しいアクティビティを取り入れる時期に来ていると思います。マンネリ化を避け、ウィサーブの精神をいつまでも

持ち続けるクラブとなる様、希望する次第であります。

いよいよ、奥村丸の船出となりました。奥村丸には、新しい活気ある活動を期待しております。最後に一年間、会員の皆様方の御協力をいただきました事に心より感謝し、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

皆でひろめよう奉仕の輪

1999年度 会長予定者 奥村元司

もっとも不適格と自他共に認める私が1999年度会長に就く、どういう経過であれメンバーの皆様には非常に迷惑だと只々思っております。

しかし乍ら、今更どうのこうのと云っても1999年7月がやって来てしまいました。今は一年間無難に役員及び会員の皆様方の助けを借りて行きたいと思っております。

私たちのクラブも8年目に入ろうとしております。私の目標としては、外には今年度のスローガンとして“皆でひろげよう奉仕の輪”、内には“家族に向かってウィサーブ”と二つの目標を考えました。現在の経済情勢の中でのアクティビティの

あり方はこれで良いのか会員全員で考えなおす必要があるのではないのでしょうか。

その中で9月・10月・翌年4月と3回の労力奉仕を公衆安全委員会及び計画委員会で共催、又計画委員会で行なう8年目で初めての家族例会を全員参加のもと劇団四季の“キャッツ”、又例会は名古屋観光ホテルで12月23日に行ないます。我々が今現在あるのは会員皆様方の努力と家族の協力があったことだと思います。12月の第二例会は家族の方々に感謝の意を込めて行ないたいと思いません。

この他にも各委員会が努力されてすばらしい活動があります。現在は最終的な年間事業計画案・予算案が出来上がり、皆様の承認を得て実行するばかりです。

これから一年間、多分私は数え切れない程の失敗を重ねながら行きつつ何とかクラブには迷惑をかけない様にして行きたいと念願しております。

奉仕の時にはしっかりと、又楽しむ時には大いに楽しむ。全員協力して一年間を過ごしていきたいと思っております。メンバーの皆様には何卒一年間のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

環 境 問 題 最 新 情 報

南極の水

最大の3,000平方キロ崩壊

南極の棚氷は過去50年間に7,000平方キロが崩壊しているが、昨年から今年にかけて3,000平方キロ新たに崩壊し海に流出したと米コロラド大学が発表。棚氷の崩壊は加速しており、数年の内には大部分がなくなる可能性がある。(4/8 日経・朝日)

大気中二酸化炭素増加量 過去最高

98年の大気中の二酸化炭素濃度増加量が、観測以来もっとも高くなったと気象庁が発表した。年平均増加量がこれまでの1.6ppmに対し、2倍の3ppmになっており、エルニーニョ現象の影響が原因とみている。(3/18 毎日)

アマゾン熱帯雨林 破壊は公表の2倍

世界最大の熱帯雨林アマゾンで、公表されたデータの2倍以上のスピードで、伐採や火災による森

林破壊が進行している事が、米国とブラジルの共同研究で分かった。98年の1年間で、約44,000平方キロが消失している。(4/8 毎日)

雪の酸性度、危険値に迫る

札幌市内に降る雪の酸性濃度が、1983年以降、年々高まっている事が北海道工業大学の16年間に及ぶ調査で明らかになった。98年はついにpHが5を割り込み、使い将来危険数値4.5に達する可能性がある。pH4.5を割り込んだ雪が常時降った場合、自然界の中和機能を超え、森林土壤に大きな影響を与える。(4/4 北海道)

ダイオキシン

血中に最高805ピコグラム

超高濃度のダイオキシン汚染を起こした大阪府能勢町のごみ焼却施設「豊能郡美化センター」の従業員の血液から最高805ピコグラムのダイオキシンを検出した。これは国内最高値で一般人の平均の約40倍にあたり、1日当たりの摂取量は60

ピコグラムになる。

※WHOの摂取許容量は1日1ピコ～4ピコ。

(3/27 朝日・毎日・読売)

昨年12月で操業停止になっている茨城県新利根町のごみ焼却場「城取清掃工場」周辺住民の血液から557ピコグラムのダイオキシンが検出された。

(3/16 毎日)

母親のダイオキシン

9割が胎児へ

大阪医大産婦人科の研究グループが、出産後の女性の血液とへその緒の血液などを採取してダイオキシンを調べたところ、母親の血中ダイオキシンの90%以上が胎児に移行している事が明らかになった。(4/9 朝日・毎日・日経)

美しい地球をもとめて

知っていなければならない基本

環境破壊が何故進むのか？ 過去の巨大文明が何故滅亡したのか？
原始的な生活を送っている人々が何故滅びないのか？

①自然な生き方

人間は自然の一部であり自然なしでは生きられない小さな生物であります。自然と調和した生き方が、美しい地球をもとめる第一歩ではありませんか？しかるに現実には金・金・金…。そのため生存環境を破壊するという致命的なミスを知っていながら犯しています。

②自給・自足、農耕

消費は最小限に抑え、自給自足の範囲内がベスト。生きる方法は狩猟・採集・農耕。商工業は自然が許す範囲内なら可能であるが、それ以上のものは美しい地球を維持するためには不可能である。

③経済拡大は不可能

経済の拡大は自給自足が破綻し輸入が必要となります。そして輸入には運送・保存・エネルギーの面で近い将来困難が生じるでしょう。そして輸入相手国の自給自足をも破壊します。考えて下さい。食料の90%以上を輸入に頼っている我国に対して、自給自足が破綻した国が我国を支援してくれるのでしょうか？

④便利快適は不自然

一人で巨大な破壊を可能にするブルドーザ、時速100キロで走る車、夏涼しく冬温かいエアコン、その他にも冷蔵庫・電子レンジ等一見便利ですが、人工的な便利快適は不自然であり必ず破綻します。自然の限界を超える事は出来ません。数十年後にガソリンで動く自動車がなくなる事は明らかです。

⑤進歩発展は不自然

今でも原始的な生活を送る先住民の人々は「人間は自然の一部、自然と調和しなければ生きられない」と知っていて昔と変わらない生活をしています。我々は傲慢にも「人間は万物の霊長、自然を支配する能力がある」と思っている。どちらが美しい地球を可能にするのでしょうか？歴史上、自然を超える進歩発展を試みた巨大文明はすべて破滅の道を歩みました。我々は同じ過ちを犯すのでしょうか？

⑥金・所有・相続はあってはならない

環境破壊の根本原因は「お金・所有・相続」です。お金が蓄積を可能にし、所有が欲望を煽り、相続が所有を煽りました。「お金・所有・相続」がある限り、競争と戦争と破壊はなくなりません。

皆さん一度考えて見て下さい。確かに～そんな事やってられない～と思います。そんなに長くない私たちの未来はどうにかあるかもしれません。しかしながら、このままでは私たちの子供たち・孫たちに未来がない事は明らかな事です。

美しい地球を求めて、もう一度考えてみませんか。

ファクター10

ご存知ですか？

ファクター10とは

「エネルギーや資源を有効に利用し、資源消費を10分の1に減らす」ことです。

オーストリア政府が「ファクター10」をスローガンとして国家環境計画に盛り込むなど、欧州での政治・経済活動は、資源の大量消費をやめ、まず10分の1に削減する事をめざして動き始めています。

どうしてファクター10が必要なのか

- ①先進国の資源消費には無駄が多い
 - ・完成品の80%は1回使用されただけで捨てられる。
 - ・消費された資源の93%は商品として再利用されていない。
 - ・発電に使われる石油・石炭のもつエネルギーの6分の1しか移動のために使われていない。残りは廃熱となる。
- ②資源は有効であり、現状のままでは枯渇を避ける事は出来ない。
石油産出量は今後5年～20年で頭打ち衰退する。鉛はあと22年、銀は28年、金は31年、亜鉛は45年、銅は48年。
- ③資源の大量消費が地球温暖化をはじめとする環境破壊を引き起している。

ヨーロッパでの資源消費を減らすための具体策

- ①ペットボトルの厚さを2～3倍にし、40～100回利用している。
- ②電力消費量が5分の1の省エネ電球を無料配布。多くの自治体で省エネ商品購入に補助金を出す。
- ③発電所から発生する廃熱を冷暖房や給湯に再利用する。ごみ埋め立て地から発生するメタンガスを集め発電を行なっている。
- ④カーシェアリング（複数の人で車を共有する事）でマイカー・維持費用・駐車場を減らす。共同出資の自動車の維持管理を行うカーシェアリング協会がヨーロッパ250都市にあり、車は6分

の1に削減できている。参加者も増え続けている。

- ⑤路面電車やバスなどの公共交通網が整備されており、パークアンドライド（郊外の無料駐車場に車を止め公共交通機関を利用し市内に入る方法）方式を採用したり、車が入れない地域を設けたり、自転車道を整備し脱車社会を目指している。
- ⑥消費者と離れた場所で作られた食物は運送や鮮度を保つために大量のエネルギーが消費される。工業的農業に比べエネルギー消費量が10分の1以下の家庭菜園や近郊農業が奨励されている。ドイツ国内で消費されている野菜の2割が家庭菜園で作られている。回収したゴミを堆肥にし無料で市民に配布する自治体もある。

日本の現状

日本では大量生産大量消費が続けられ、しかも日本で消費している資源の9割以上が輸入されたもので、資源の枯渇が近づいている現在、資源消費を減らし、循環型社会への転換が必要である。

私たちにできる事

- ①4R（やめる・減らす・再利用・リサイクル）を心がける。不要なもの・使い捨て商品は買わない使わない。
- ②国産品を使い、輸入品を買わない。（輸送に大量なエネルギーが必要）
- ③節電・節ガス・省エネ（消費電力の小さな製品を使う）
- ④公共交通機関を利用する。
- ⑤一家団欒、みんなと一緒に食事・風呂。
(地球村通信より)

